

FLY TO THE
WORLD



HANEDA
TOKYO
JAPAN



羽田空港におけるOne IDの導入状況について

2021年4月12日

東京国際空港ターミナル株式会社
施設部 シニアマネジャー
大橋 昭一

羽田空港国際線におけるOne ID利用イメージ

<ポイント>

✓ One IDを導入すると、**計1回の登録手続き（One IDの作成）**により、**顔パスで各手続きが可能となる。**

利用シーン (システム管理者)	自宅等 (航空会社管轄)	搭乗手続き (TIAT管轄)	手荷物預け (TIAT管轄)	保安検査 (TIAT管轄)	※出国審査 (法務省管轄)	搭乗 (TIAT管轄)
現在の 手続き (既存の 手続 機器)	 ウェブ等で事前 チェックイン手続き	 CUSS ・もしくは有人 カウンターでチェックイン	 有人カウンタ ーで手荷物預け	 保安検査場入口にて PRS で入場資格確認	 審査官・自動化 ゲートにて出国審査	 係員にて本人確認 BGR で搭乗券確認
One ID の手続き (顔認証自動 手続機器の 導入)	 ウェブ等で事前 チェックイン手続き	 CUSS で搭乗券と 顔情報を紐付け ※ もしくはOne ID登録機	 SBD で顔認証後、 手荷物預け	 保安検査場入口にて PRS で入場資格確認	 自動化ゲートにて 出国審査	 SBG で搭乗資格確認
	 搭乗券とパスポ ート・ 顔情報の紐付け (航空会社対応)	 パスポ ート + 搭乗券 + 顔認証 (One ID)	 顔認証 (One ID)	 顔認証 (One ID)	 顔認証	 顔認証 (One ID)

CUSS: Common Use Self Service(自動チェックイン機)

SBD: Self Baggage Drop(自動手荷物預入機)

PRS: Passenger Reconciliation System(旅客通過システム)

BGR: Boarding Gate Reader (ゲート改札機(従来型))

SBG: Self Boarding Gate (自動搭乗ゲート)

※One ID対象外

NRT/HND共通ブランド～Face Express～

<Point>

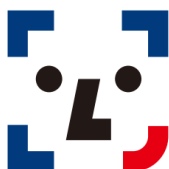
- ✓ NRTでのOneIDプログラムの、お客さま向け訴求の名称・ロゴとして、“Face Express”が考案された。（成田国際空港(株)の登録商標）
- ✓ 首都圏空港での同プログラム実施に伴い、共通ブランド下で推進を行っていくこととなり、2021年3月25日にNAA/TIAT共同リリース。（OneIDという呼称は航空業界・IATA用語であり、一般的には浸透しにくいと思われる）
- ✓ 導入機器は、それぞれメーカーも異なるため、細かい操作感は異なるものの、“顔パス”で通過できる『コンセプト』を共通化し、利用普及を進めていくものである。

**2021年3月25日
NAA/TIAT共同リリース**

<リリース内容（羽田スケジュール）>

- ・2021年7月より本格運用開始
- ・実証実験開始：2021年4月13日（火）～
- ・対象航空会社：国際線を運航する各航空会社

※4月1日時点の対象航空会社：全日本空輸、日本航空、デルタ航空、エールフランス航空（順次拡大予定）



Face Express

上：Face Express □□
右：共同プレスリリース本紙

NEWS RELEASE



2021年3月25日

Face Express 顔認証技術による搭乗手続き “Face Express” が
成田・羽田 ではじまります
～国際線のご搭乗がスムーズかつコンタクトレスに～

成田国際空港を運営する成田国際空港株式会社（以下、NAAという）及び羽田空港国際線旅客ターミナルビルを運営する東京国際空港ターミナル株式会社（以下、TIATという）は、それぞれ2021年4月より顔認証技術による新しい搭乗手続き『Face Express』を実証実験としてスタートします。

Face Expressは、お客様が所定の手続きで顔写真を登録すると、空港でのその後の手続き（チェックイン、手荷物預け、保安検査、搭乗ゲート等）において、従来必要であった搭乗券やパスポートを提示することなく“顔パス”で通過または手続きできるようになります。これにより、従来の煩わしい搭乗手続きがスムーズになるとともに、コンタクトレスで手続きができ接触リスクが軽減されます。

成田空港と羽田空港では、それぞれ以下のとおり実証実験を実施し、その後いずれも7月より本格運用を開始します。

成田空港

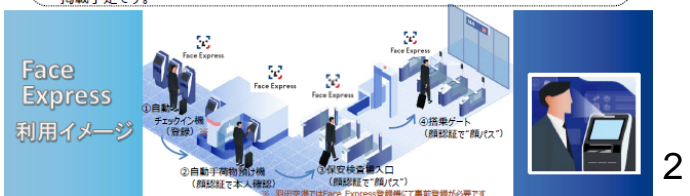
実証実験開始：2021年 4月13日（火）
参加航空会社：全日本空輸 および 日本航空（今後順次拡大予定）
機器配置場所：第1ターミナル [チェックインカウンター] C
[ゲート] 51～57A
第2ターミナル [チェックインカウンター] K
[ゲート] 61～66, 71, 81～83, 91～93

※サービスの詳細につきましては、特設ウェブサイトをご覧ください。
特設ウェブサイト：<https://www.narita-airport.jp/jp/faceexpress/>

羽田空港

実証実験開始：2021年 4月13日（火）
対象航空会社：国際線を運航する各航空会社
機器配置場所：第3ターミナル [チェックインカウンター] D・E・G・H・I・J
[ゲート] 全ゲート
第2ターミナル* [チェックインカウンター] P・Q・T *現在国際線は一時閉鎖中です
[ゲート] 全ゲート

※サービスの詳細につきましては、羽田空港HP (<https://tokyo-haneda.com>) に今後順次掲載予定です。



<ポイント>

限られたターミナル施設・設備を効率よく運用するために、**共用施設利用（Common Use）**の方針に基づき、各航空会社は日々の運航業務を行っている。

- ✓ ターミナル施設・設備・システムはTIATが整備し、全航空会社に貸し出している。
- ✓ Common Use運用のため、チェックインカウンター、ゲートのアサインは固定されていない。

⇒ 各年のサマー⇔ウィンターダイヤ・新規就航およびインシデント発生の際に、アサインが変更となる可能性がある。

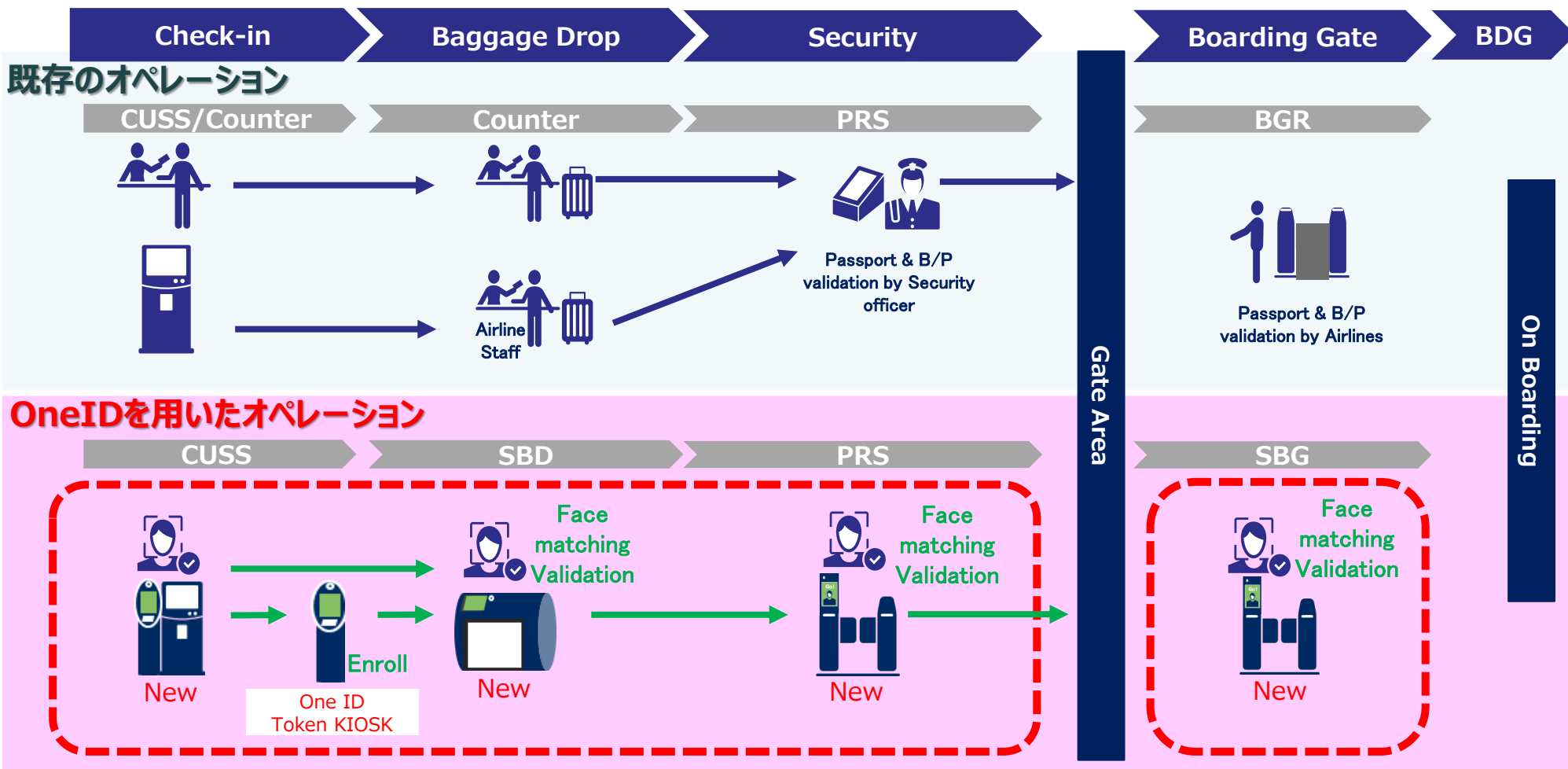
- ・チェックインカウンターのアサインは、TIAT
- ・ゲート（スポット）のアサインは、TCAB



One ID導入方針について（既存チェックインシステムとの両立）

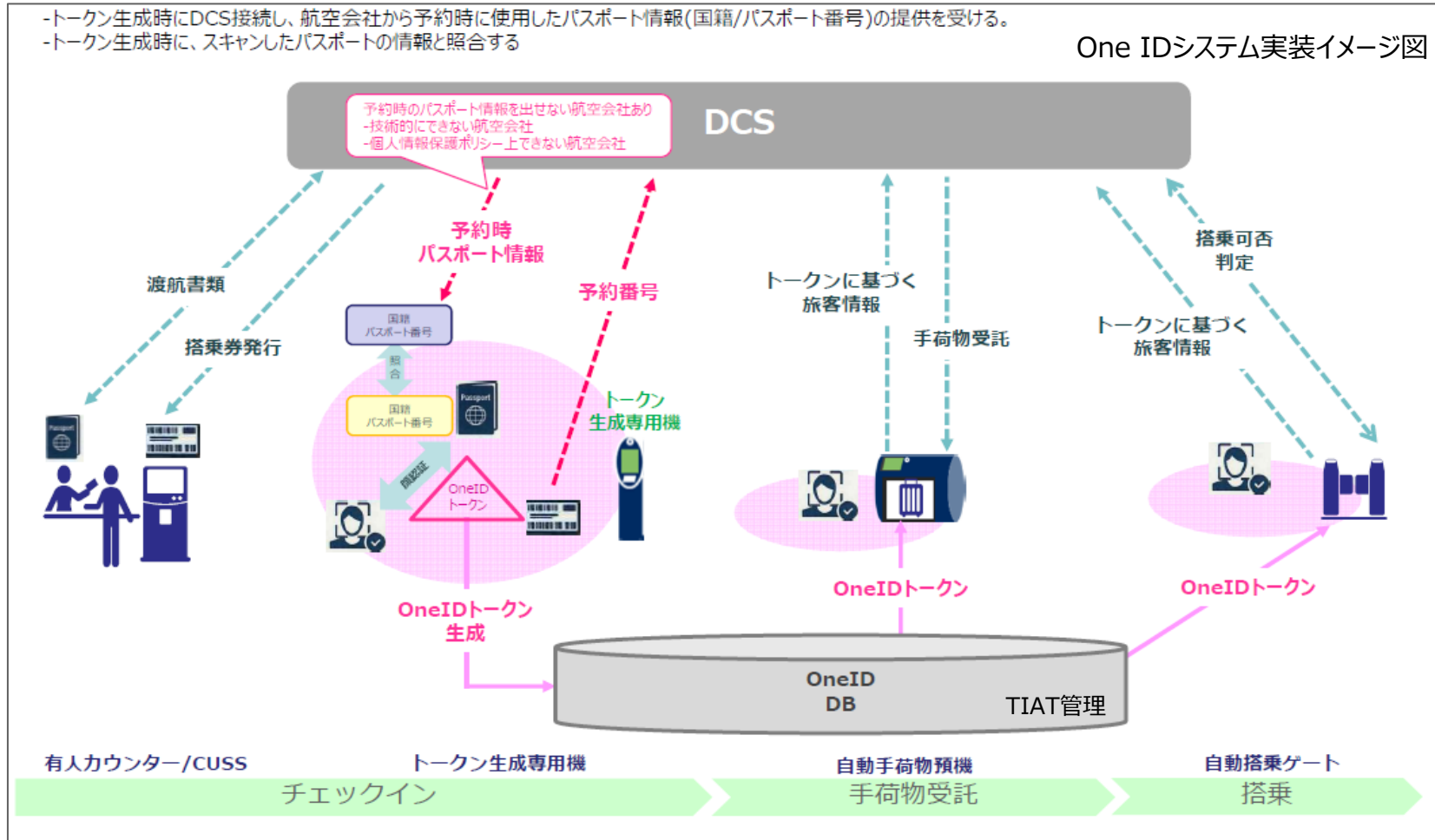
<ポイント>

- ✓ Common Useの運用観点から、One IDを利用しない航空会社への配慮と対応が必要。
- ✓ 既存の搭乗業務（チェックインシステム）とOne IDによる搭乗業務が両立(併用)できるシステムを導入。



<ポイント>




- ✓ 航空保安対策基準に準拠したOne IDシステムを構築し、各搭乗手続きにおいて顔認証システムを活用した本人確認プロセスを実現する。



<ポイント>

- ✓ 個人情報保護法等の関連法令の遵守と個人データ取扱いに関するガイドラインに則ったOne IDサービスの運用。

< OneIDで取り扱うデータ種 >

取得元	取得データ
パスポート情報 	国籍 旅券番号 有効期限 発行国 姓 名 生年月日 性別
搭乗券情報 	搭乗者氏名 Eチケットインジケータ Number of Legs encoded 予約番号 出発地 目的地 運航エアラインコード 搭乗便名 運航年月日(Julian Date) Compartment Code 座席番号 チェックインシーケンス番号
顔情報 	撮影顔写真情報

※IATA Reso792に基づく
データフォーマットであること

空港での顔認証技術を活用した One ID サービス
 における個人データの取扱いに関するガイドブック

国土交通省航空局
 令和2年3月13日

- 設置工事における、お客さま・職員の安全確保と事故災害「0」の達成。
- 航空会社の運航・運用に影響をおよぼすシステムトラブル「0」の達成。
影響をおよぼす場合は、最小化を図る。
- 世界初、Common UseのOne IDシステムの構築と運用開始。



2021年3月末日 OneID導入プロジェクト システム構築完了
2021年4月～ 実証実験開始

<ポイント>







One ID導入に関するランドデザイン・システム仕様・運用等について、当該システムの利用者である羽田AOC(航空会社運営協議会)と協議しながらプロジェクトを推進しました。

- 羽田AOC内にてワーキンググループを立ち上げ、2018年11月より隔週にて打合せを実施。
- 月1回開催される羽田AOC総会にて、ワーキンググループでの協議内容およびプロジェクトの進捗状況を全航空会社に報告。



<ポイント>

- ✓ 新規設置機器については、T2国際とT3で同一機器を導入し、サービスレベルの均一化を図る。
- ✓ サーバーや航空会社ホスト接続およびOne IDプラットフォーム等の共通システム基盤はT3に集約する。
- ✓ 搭乗ゲートのアサインは固定されていないため、全ての航空会社がどのゲートにアサインされても、One IDが利用可能なように全ての搭乗ゲートに自動搭乗ゲート（SBG）を設置する。

	OneID対応 自動チェックイン機 (CUSS)	OneID登録 専用機	自動手荷物 預入機 (SBD)	旅客通過システム (PRS)	自動搭乗ゲート (SBG)	OneID プラットフォーム
						
T2国際	26	7	32(※2)	14	20	1
T3	66(※1)	18	72(※3)	27	60	
合計	92	25	104	41	80	1

※1：OneID対応CUSSの設置台数（既存の従来型CUSSも併用するが、OneID対応は実施しない）

※2：SBD設置台数／カウンター数 = 32/44（地下1階 カウンター含む）

※3：SBD設置台数／カウンター数 = 72/176（1階カウンター含まず）

2021年4月1日時点

工事期間中の業務・運用への配慮

セルフバゲージドロップ(SBD) 新設工事

カウンター閉鎖中、旅客対応キャパシティが低下しないよう、Nカウンター裏に臨時カウンターを設けて対応。
※コロナウイルス関連での減便後は、空きカウンターも活用しリカバリ。



工事期間中
仮運用



Nカウンター裏臨時カウンター



臨時カウンター運用(ANA様)

旅客通過確認システム(PRS) 設置(更新)工事

工事区画を2分割(南/北)し工事期間中も旅客動線が安全に確保されるよう、また航空保安対策を講じ、工事を遂行。

工事エリアの先にある保安検査場については、工事期間中も縮小することなく検査業務を継続。



工事エリア 旅客動線を確保



既存PRS・仕器を前面に移動

搭乗自動ゲート(SBG)設置工事

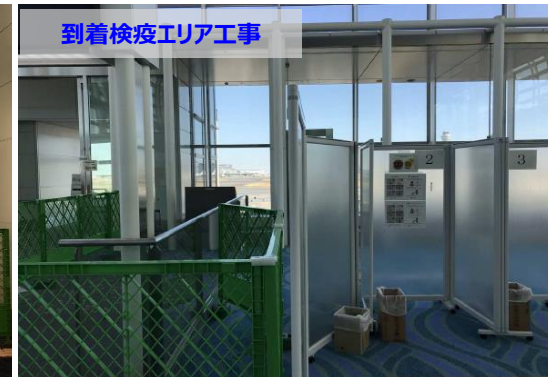
PBBゲートの期間閉鎖を伴うため、航空局/東京空港事務所運航情報官と月次で、工期について情報共有を実施し、Spotコントロールとゲート閉鎖の情報連携を実施。

到着検疫のエリア(北サテライト部)の工事においては、東京空港検疫所支所と調整。
※工事に当たっては、必要な感染対策を講じたうえで、到着便のない夜間帯に実施。

仮設でゲートリーダーを設置し、搭乗業務を継続。(工事後のスムーズなゲート運用再開)

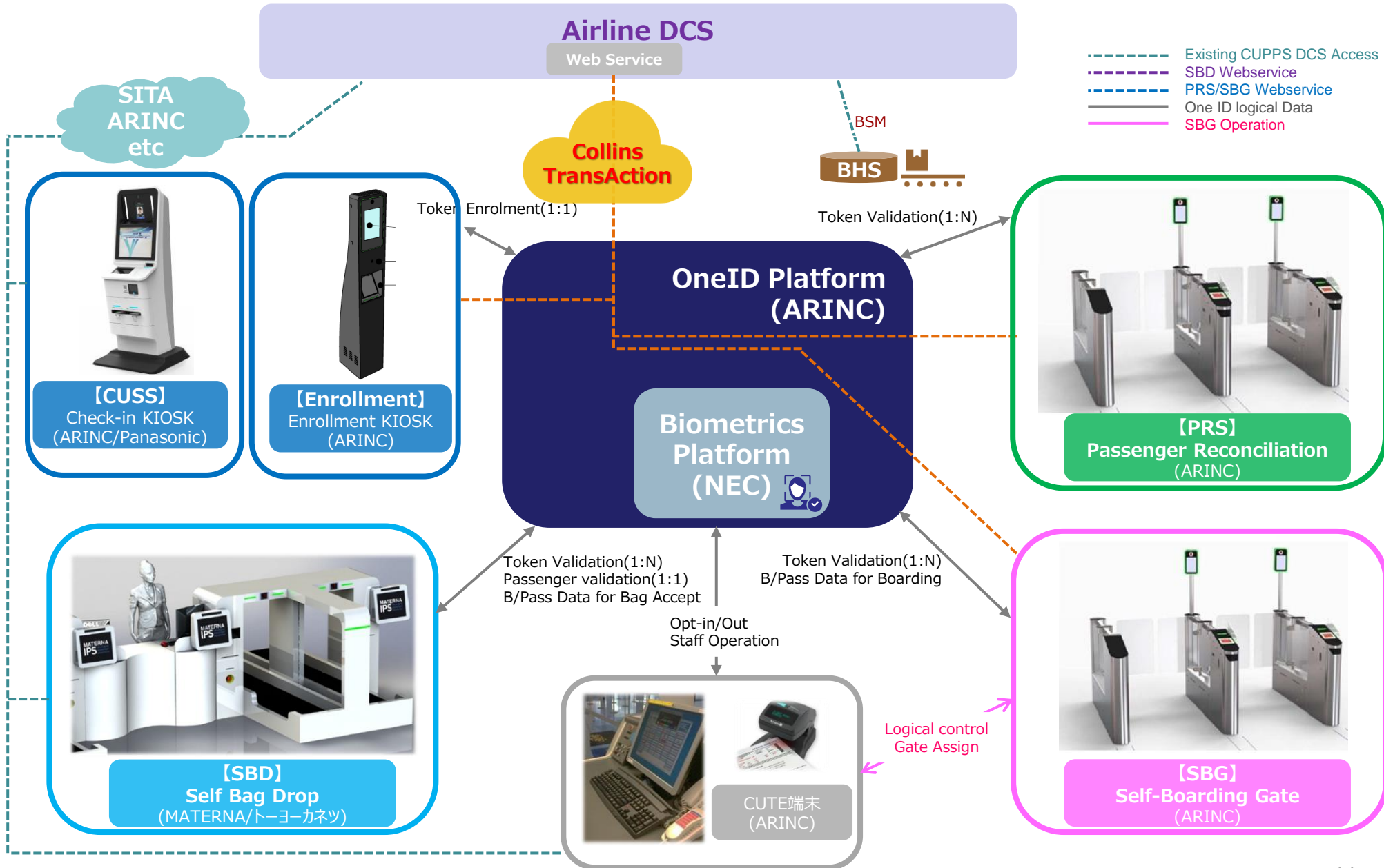


PBBゲート工事



到着検疫エリア工事

One IDシステム連携図



<ポイント>

- ✓ お客さまの最初のタッチポイントとなり、航空会社のチェックイン機能およびOne ID（トークン）生成機能を提供する。
- ✓ One ID（トークン）生成機能は、One ID対応のCUSSもしくはOneID登録専用機にて提供する。
- ✓ OneID非対応の航空会社用に、従来型CUSSも継続利用し活用する。

現在の搭乗手続き



- ・チェックイン機能を提供 ※CUSS利用意思のある航空会社のみ実装。
- ・チェックイン用アプリは利用する航空会社が準備
※2017年7月 手荷物タグ発行機能を追加
※タグ発行機能の使用判断は航空会社のアプリの仕様による

FAST TRAVEL (One ID) の搭乗手続き



One ID
登録専用機



他多数

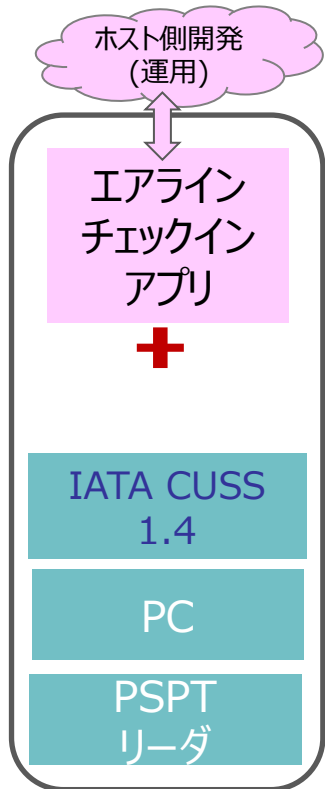
- ・チェックインに必要な基本デバイスを搭載する
(パスポートリーダ、搭乗券プリンタ、手荷物タグプリンタ、カードリーダ など)
- ・当該機器もしくはOne ID登録専用機に、生体認証カメラを搭載し、OneIDトークン作成を行う

One ID登録専用機 (Enrollment KIOSK) 導入の背景

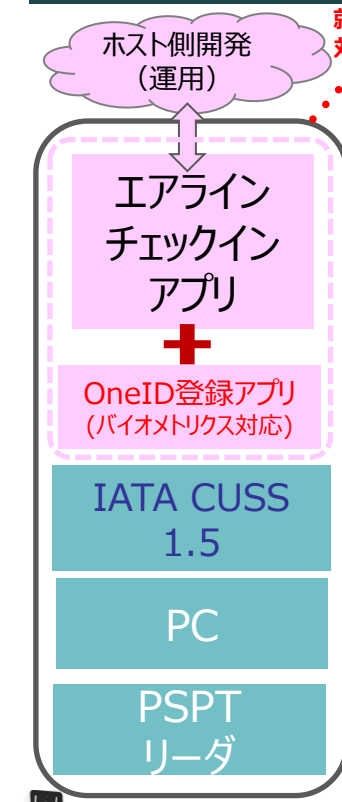
<ポイント>

- ✓ CUSSのチェックインアプリは、**利用する航空会社が開発し導入している** (ホスト側開発・運用含む)。CUSSの機器とプラットフォームはTIATが整備。
- ✓ IATA CUSSプラットフォーム 1.5(バイOMETRICS対応)の**航空会社アプリが開発・導入されるまでのソリューションとしてOne ID登録専用機を導入する。**
- ✓ 現在、CUSSアプリを運用中でない航空会社も、**One ID登録専用機を用いて、広くOneIDプログラムに参画可能とする。** (Web CHK-IN旅客も考慮)

現行CUSS



One ID対応CUSS



就航44社の
対応が必要

現時点で、IATAに準拠したCUSSのチェックインアプリ+
One ID登録・認証アプリを開発し導入可能な
航空会社は無いため、One ID登録専用機を配備
(但し、航空局保安対策基準に規定のシステム対応は必須となる)

**IATA PASSENGER EXPERIENCE
AND FACILITATION UPDATE**
(出典: Oct, 2020 より)

Common Use Self Service
(CUSS)

CUSS 1.5.1 Technical Specifications

Since our last publication, the team expedited an update for CUSS version 1.5.1. It supports a Biometric Provider Interface as an optional kiosk component. This component provides a CUSS application with the ability to integrate biometric features.

The CUSS Technical Specification only defines the interface between a CUSS application and a CUSS platform. This specification does not identify, recommend nor endorse any specific biometric solution or subsystem that can meet the requirements implied by the CUSS interface.

Features Supported:

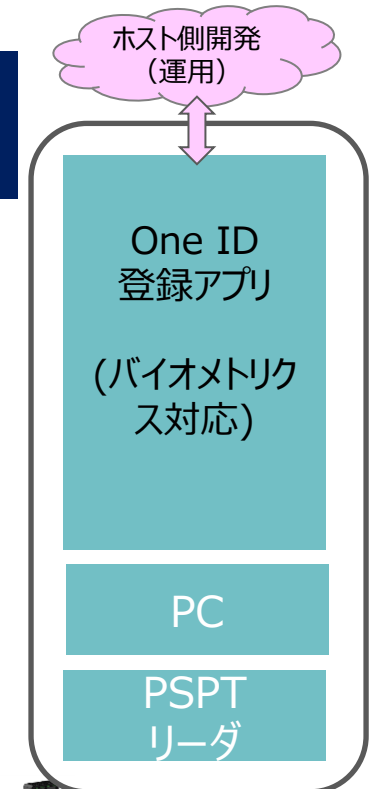
- Passenger identification based on biometrics match criteria.
- Passenger identity verification
- Approved Biometrics Interface including 1:1 and 1:n matching (and all the shenanigans)

CUSS 1.5.1 also allows interaction with mobile devices (depending on specific application features).



IATA CUSS1.5に基づき
航空会社がアプリ等を開発
次第、順次利用開始。

One ID 登録専用機



全ての航空会社が利用可能
(Common Use)



<※航空保安対策基準に準拠したアプリ・ホスト側開発が必要>

【凡例】
 : 航空会社範疇
 : TIAT範疇

One ID機器概要：自動手荷物預入機(SBD)

<ポイント>

- ✓ SBDは有人（係員対応）モードと、無人（旅客によるセルフ対応）モードが利用可能なハイブリッドタイプを導入した。
- ✓ 既存1カウンター当たり12ブースの有人カウンターがあり、カウンター運用の観点からSBD導入時も12ブースを確保している。
- ✓ SBD計量ベルト部の手荷物乗せ込み高さは、設置条件等を勘案し可能な限り既存ベルトと同様のフラット性を踏襲している。
- ✓ 搬送ベルト部物理シャッター、侵入検知センサー(ベルト緊急停止と連動)により、既存カウンターと同等以上の安全性を確保した。

現在の搭乗手続き



- ・自動チェックイン機および有人カウンターでタグを発行し、カウンターで航空会社係員が計量・受託手続きをする。
- ・時間帯によっては、自動チェックイン機が空いていても、次ステップのカウンター受託混雑による待ち列が長くなることもある。

FAST TRAVEL (One ID) の搭乗手続き



- ・カウンターの有効活用のために、既存の有人カウンター機能を実装する（お客さまアシスト時、機器不具合時に航空会社職員が代替受託運用を行う）
- ・生体認証用カメラを搭載し、トークン作成済旅客の場合は顔認証により、手荷物の受託が可能とする

<ポイント>

- ✓ 羽田AOCの要望により、1STEP/2STEP運用が可能なハイブリッド対応のSBDを導入している。
- ✓ 広く航空会社にSBDをご利用いただけるよう、受託手荷物専用の共用アプリケーションをTIATが用意することを検討中。(Common Use)

	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">Airline Application</div> <div style="text-align: center;">1 STEP</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">Airline Apps or White Label</div> <div style="text-align: center;">2 STEP</div> </div>
Operation	<p>STEP1 : Check-in & Print B/Pass @SBD Print BagTag @SBD and attach them to Baggage Drop Process</p> <p>**All acceptance process is completed with SBD</p>	<p>STEP1 : Check-in & Print B/Pass @KIOSK or Another channel Print BagTag@KIOSK and attach them to Baggage</p> <p>STEP2 : Drop Process @SBD **If requires, new tag or additional tag can be printed @SBD</p>
Operation Image		
CHK-IN	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; background-color: #ffcc00;"> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">Airline Own CHK-IN & Drop Application</p> </div>	
Drop	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #008080; color: white;">Common Application</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #ffcc00;">Airline Own Application</div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; background-color: #cccccc;"> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">Airline Own CHK-IN Application @KIOSK or Another channels</p> </div>	

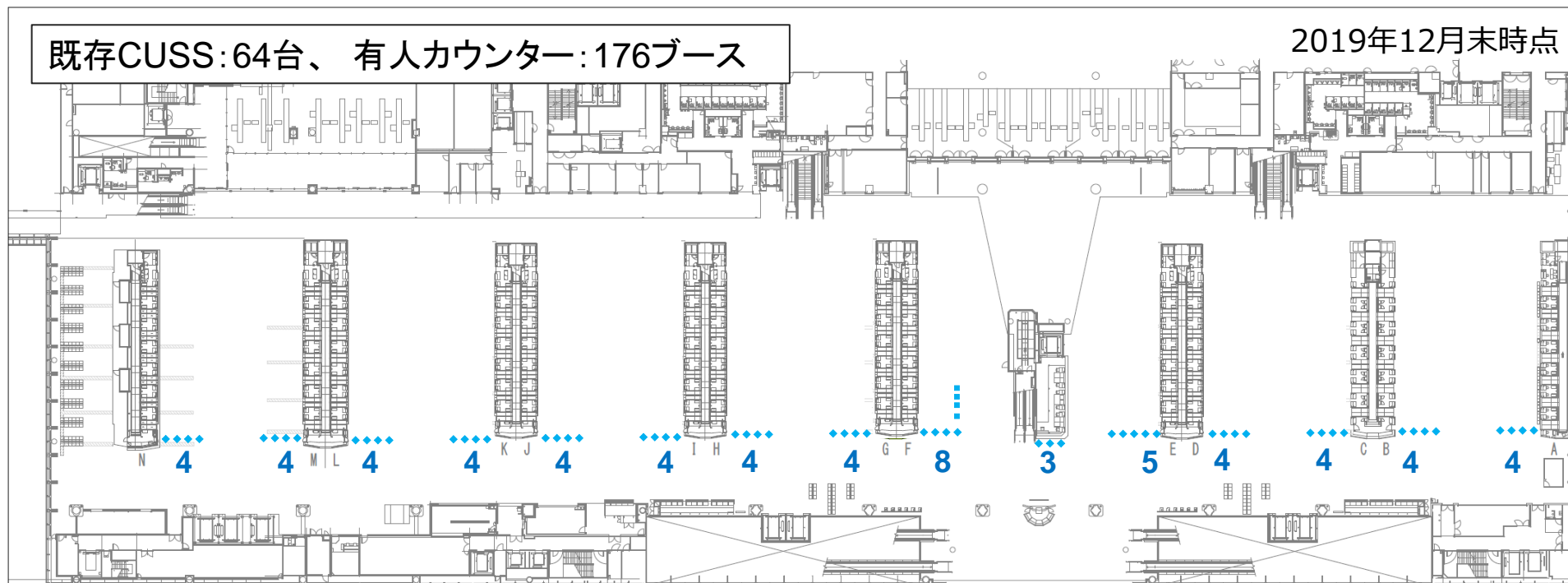
T3 : SBD・CUSS設置図 (工事前)

<ポイント>

- ✓ SBDの設置対象カウンター、CUSS (One ID対応) の台数とレイアウトについて、羽田AOCと協議し決定。
- ✓ SBDを利用しない航空会社の有人運用を考慮。⇒ カウンターの待ち行列エリア、手続きエリア等のスペースを考慮。

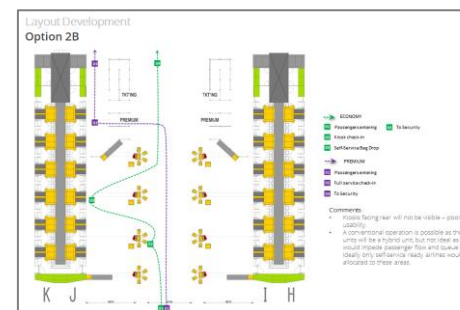
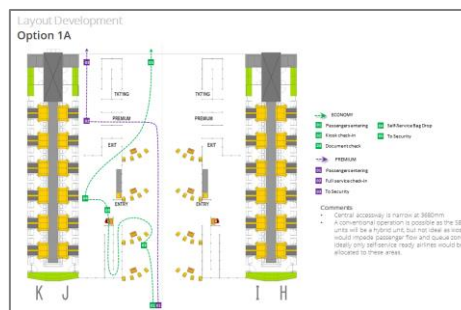
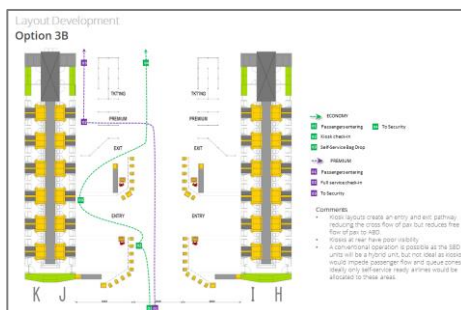
既存CUSS:64台、 有人カウンター:176ブース

2019年12月末時点



<凡例>

◆:既存 CUSS



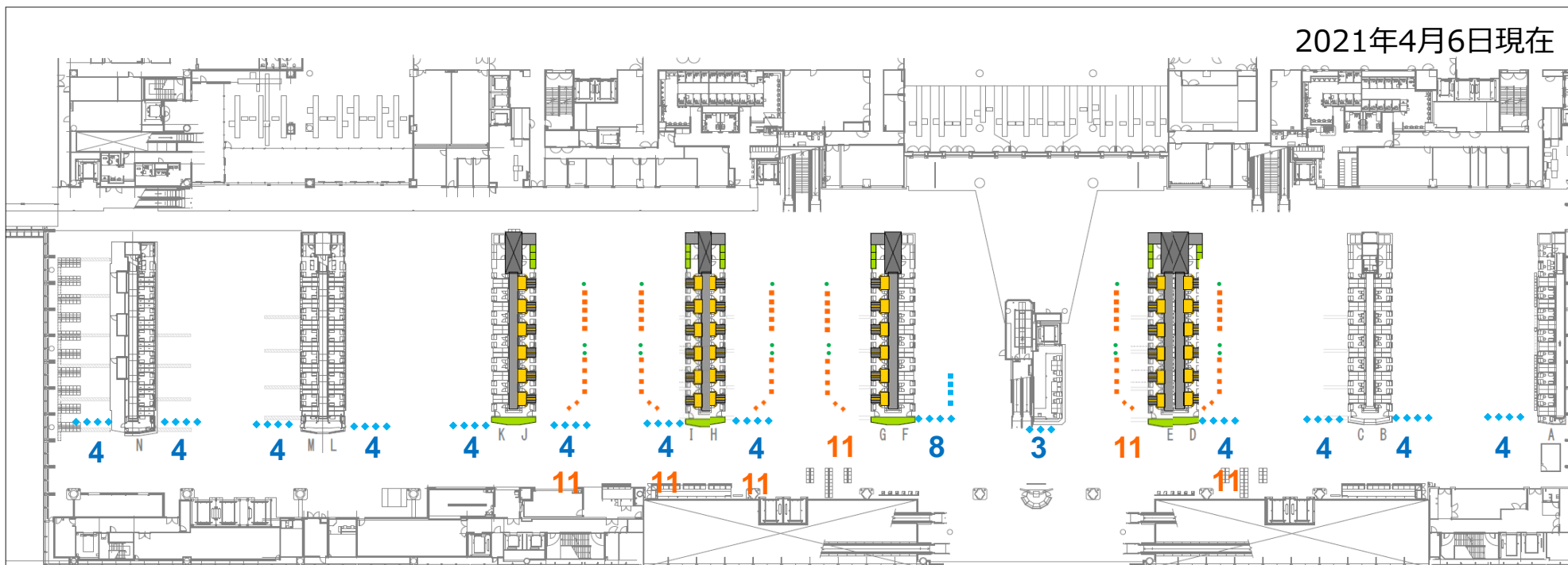
<レイアウト・台数検討案>

T3 : SBD・CUSS設置図 (工事後)

<ポイント>

- ◆ 全てのハードウェアは**Common Use仕様**です。
- ✓ CUSS : 合計125台 (既存CUSS : 59台、新設CUSS : 66台)
※ Windows10への移行対応に、各社バラつきがあるため、一部カウンターでは既存CUSS/新設CUSSの併用運転が継続
- ✓ SBD : 対象カウンターに12台設置 (SBD : 合計72台設置。 SBDを利用しない航空会社の運用に配慮し、有人/セルフのハイブリッド仕様)
- ✓ One ID登録専用機 : 対象カウンターに3台設置

2021年4月6日現在



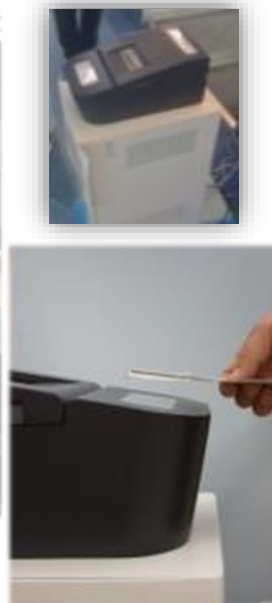
<凡例>

- ◆ : 既存 CUSS
- ◆ : 新設 CUSS (One ID対応)
- : SBD
- : One ID専用登録機

<ポイント>

- ✓ 保安検査係員によるPRSの運用をセルフ化し、保安検査場への入場資格判定および入場案内の自動化を図る。
- ✓ PRS機器は、フラッパーゲートを有し、入場可否の判定結果によりゲート開閉が連動する。
- ✓ 検査場入場資格の判定は、**One IDもしくは搭乗券により認証・判定する。**（判定基準は既存システムと同様：フライトデータ・旅客情報）

現在の搭乗手続き



- ・係員が旅客の発行済搭乗券を預かり、旅客通過確認システムの専用読取機にてスキャンを実施し、搭乗券を返却
- ・システム判定結果に基づき、検査場通過可否を案内している

FAST TRAVEL (One ID) の搭乗手続き

出発時間	航空会社	フライト番号	ゲート	状態	備考
0:00	バンコク 曼谷	NH8001	3E1	閉鎖終了	搭乗 済
0:05	シンガポール 樟宜空港	JL35	2F4026	閉鎖中	搭乗 済
		AA8487	UL3335	閉鎖中	搭乗 済
		HA5006		閉鎖中	搭乗 済
0:05	バンコク 曼谷	NH849	AC6273	閉鎖中	搭乗 済
		TG6106	JA8003	閉鎖中	搭乗 済
0:10	フランクフルト 高野日本空港	NH203	HA921	閉鎖中	搭乗 済
0:20	バンコク 曼谷	TG661	NH5965	閉鎖中	搭乗 済
0:30	ドバイ 中東	EK313	UL5093	閉鎖中	搭乗 済
0:35	バンコク 曼谷	JL33	TG6152	閉鎖中	搭乗 済
		UL3357	AA8485	閉鎖中	搭乗 済
0:40	シンガポール 樟宜空港	NH843		閉鎖中	搭乗 済
0:55	バンコク 曼谷	NH877	TG6102	閉鎖中	搭乗 済
1:00	香港 香港	UL623		閉鎖中	搭乗 済
1:15	マニラ 小呂宋	PR423		閉鎖中	搭乗 済



運航情報システム連動



- ・お客さま自身が、搭乗券(モバイルも可)読取機へのスキャンを実施する（現行通り、フライトステータスによる通過判定がOKであれば、ゲートが開き、保安検査場に進む）
- ・OneIDトークン作成済旅客は顔認証にて通過可否を判定・案内する
- ・通過NG旅客に対しては、レシートを印字し周知する

新旅客通過確認システム（PRS）の機能追加

<ポイント>

- ✓ AOC各社のご要望により、ホームプリント搭乗券・Webチェックイン旅客・国内線乗継旅客の自動判定機能を実装（搭乗券種別により、追加の対応が必要な旅客に対して、きめ細やかな対応ができるよう改善）
- ✓ 特に、COVID-19影響による、各国渡航条件の厳格化に伴い、カウンターでの渡航確認対応を強化すべく、多くの航空会社で当該機能を活用し、安全・安心な運航に寄与している。

空港で発行の搭乗券



空港カウンター/自動チェックイン機
発行の搭乗券は原則通過判定

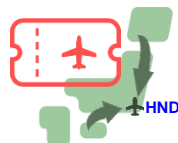
モバイルチェックイン



ホームプリント搭乗券



国内線スルー搭乗券



バーコードを自動判定し、
対象航空会社は航空会社カウンターへ案内する

※レシート発行



確認後、搭乗券再発行



- ・渡航ビザ確認
- ・COVID-19陰性証明書確認
- ・パスポート情報再登録
- ・追加本人確認 など



旅客通過確認システム

<ポイント>

- ✓ 自動搭乗ゲート機は、①顔認証機能（One ID運用）、②搭乗券読取機能（既存運用）の **両方の機能を備えた Common Use対応**とし、各航空会社のゲート業務および各航空会社の出発制御システム運用の柔軟性を確保する。

現在の搭乗手続き



FAST TRAVEL (One ID) の搭乗手続き



- ・**お客さま自身**が、搭乗券(モバイルも可)読取機へのスキャンを実施する (通過判定がOKであれば、ゲートが開き、機内に進む)
- ・OneIDトークン登録済旅客は、**顔認証**にて通過可否を判断する
- ・OneIDトークン未登録旅客は、搭乗券(バーコード)スキャンで搭乗する
- ・顔認証装置の裏面にもモニタがあり、旅客案内画面を職員が参照可能
- ・最終的な搭乗可否判定は、各航空会社の出発制御システムで行う
- ・通過NG旅客等に対しては、レシートを印字し周知する (レシート印刷の制御は航空会社のシステムによる)

- ・係員①がパスポートで**本人確認を実施**
- ・係員②が、読取機(BGR)で**搭乗券(バーコード)**をスキャンして、機器のランプ表示により搭乗可否を判定し、旅客案内を実施
- ・読取対応媒体は、搭乗券(モバイルも可)

自動搭乗ゲート (SBG) の運用開始について

AOC各社さまとのシステム接続試験状況(搭乗券運用)

搭乗業務で用いる出発制御システム(DCS)、所謂、航空会社ホストは、各社それぞれ仕様が異なるため、1社毎にシステム試験を実施し、問題なく動作確認をした航空会社から、随時、**搭乗券による自動搭乗ゲートのセルフ運用**を開始。

※非接触運用による感染防止対策に寄与

利用対象航空会社	全就航会社44社
試験完了航空会社	17社 (2021年4月1日時点)
試験実施日確定航空会社	1社 (2021年4月1日時点)

(運休中の航空会社は、復便などに合わせて順次システム接続試験を調整)

AOC加盟航空会社とのシステム接続試験の様子



“国内空港初” 国際線にて自動搭乗ゲートの運用を開始

2020年12月17日 AF293便/CDG行

“国内空港初” 国際線にて自動化搭乗ゲートの運用を開始
～ 非接触運用による感染防止対策 ～

東京国際空港ターミナル株式会社は、羽田空港第3旅客ターミナルにおいて、国際線自動化搭乗ゲートの運用を開始したことをお知らせします。

これまで、搭乗ゲート前で航空会社職員が搭乗券をお客様からお預かりしレスキャンドで読み込んで搭乗可否の判定をしていましたが、これを自動化し、お客様ご自身で搭乗券をスキャンし自動化搭乗ゲートの判定により、ゲートを通って航空機にご搭乗いただく運用となります。

当ゲートの導入により、お客様と航空会社職員の非接触(コンタクトレス)の運用となり、感染症対策に寄与できます。また、搭乗ゲートの運用がスムーズになるとともに、航空会社職員の負担軽減にもつながります。

※航空会社毎に、随時、自動化搭乗ゲートの運用を開始します。

今後も、羽田空港をご利用されるお客様と職員の安心・安全な空港サービスの提供と向上に努めてまいります。



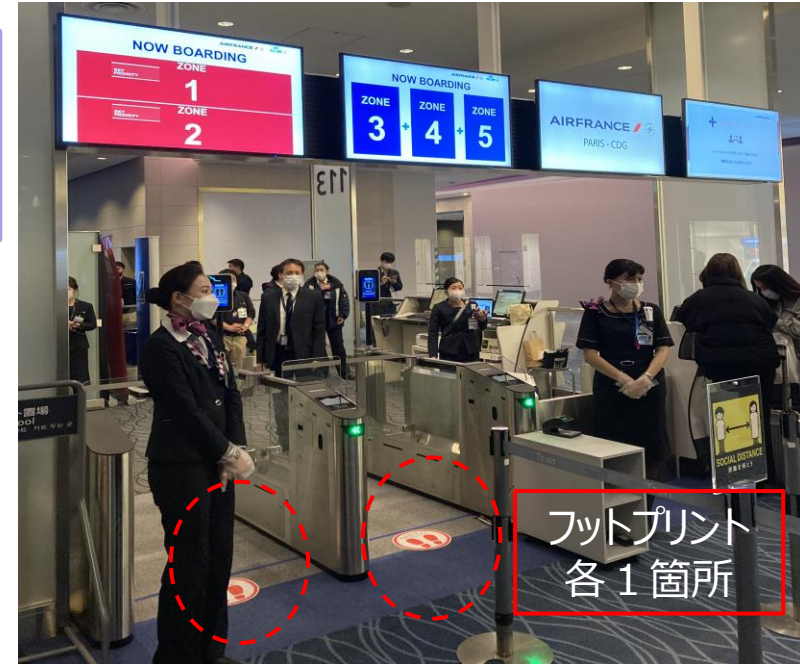
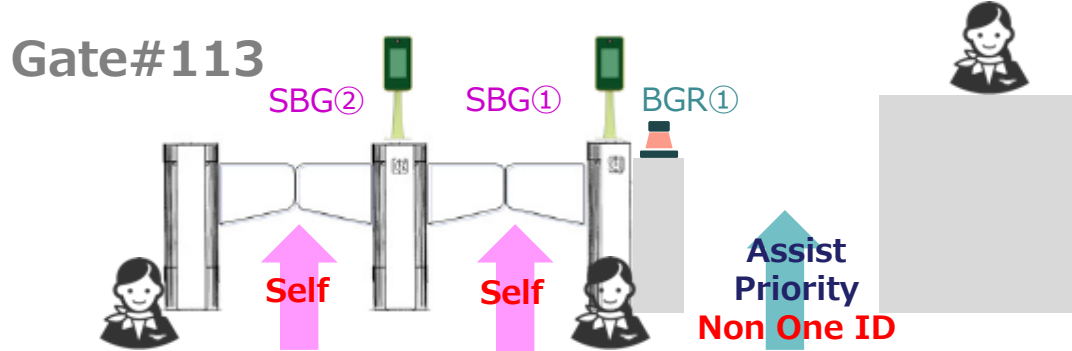
<お問い合わせ先>
東京国際空港ターミナル株式会社
企画部 (TEL:03-6428-5901)

SBGトライアル運用開始後の課題について

2020年12月17日～ エールフランス航空様 実便トライアル運用状況

課題：SBGセルフ運用の円滑な運用を目指し、キューコントロールが必要

- ・SBGx2レーン、BGRx1レーン（係員サポート） ※計3レーンをシステム化
- ・検温(AF社規定による)とパスポート確認後に、SBGにてセルフ搭乗確認



SBGセルフ運用の課題改善について（カーペット施工）

<ポイント>

エールフランス航空でのトライアル運用を受け、AOCワーキンググループにて課題改善に向けた協議をし、お客さまの効果的な誘導の実現のために、以下のように施設面の工夫を行った。

- ① 既存カーペットの色味ともマッチしつつ、お客さまにアテンション頂く部分(STOPライン、フットマーク)は、イエローで効果的にアテンションできるよう、デザインを考慮しております。
- ② 搭乗券運用+顔認証運用両方に対応可能な位置となっています。(コロナ対策にも可)
- ③ フットマークと次のお客さまのラインは約1.3m開けており、エラーハンドリング等で、カウンターへお越しいただくお客さまの動線も確保しております。(搭乗券差し替え等)



機器近景(お客さまの目線)



施工写真 (GATE #136)



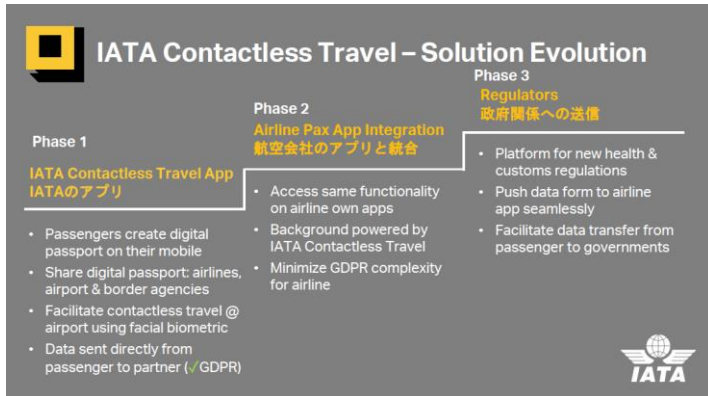
施工写真 (GATE #105)



ゲート近景

COVID-19影響下における安心・安全でスムーズな本格的な海外渡航・運航の実現に向け、世界の航空会社およびIATAの動向を注視しながら、One ID導入効果の1つである非接触・非対面での新しい搭乗手続きの実現に向けた、各取り組みとのシステム連動も視野に検討を進めて参ります。

事例：Web・MobileによるOFF AirportでのOne ID登録アプリ導入の取り組み



IATA Contactless Travel - Solution Evolution

Phase 1
IATA Contactless Travel App
IATAのアプリ

- Passengers create digital passport on their mobile
- Share digital passport: airlines, airport & border agencies
- Facilitate contactless travel @ airport using facial biometric
- Data sent directly from passenger to partner (✓GDPR)

Phase 2
Airline Pax App Integration
航空会社のアプリと統合

- Access same functionality on airline own apps
- Background powered by IATA Contactless Travel
- Minimize GDPR complexity for airline

Phase 3
Regulators
政府関係への送信

- Platform for new health & customs regulations
- Push data form to airline app seamlessly
- Facilitate data transfer from passenger to governments

IATA

事例：新型コロナウイルス陰性結果のデジタル証明書導入に向けた取り組み ⇒デジタル証明書アプリを利用した搭乗手続き（自動チェックイン）



JAPAN AIRLINES JAL GROUP NEWS

安全・安心でスムーズな渡航に向け、3つのデジタル証明書アプリ「コモンパス」、「VeriFLY」、「IATAトラベルパス」との取り組みを開始

2021年4月2日 第21003号

- 3つのデジタル証明書アプリ「コモンパス」、「VeriFLY」、「IATAトラベルパス」のJAL運航便への導入に向けた取り組みを開始
- 羽田-ホルル線(4月2日)、成田-シンガポール線(4月5日)で「コモンパス」との実証実験を空港で実施
- 安全・安心でスムーズな渡航を目指し、デジタル証明書アプリの早期実用化に向けた取り組みを加速

JALは、3つのデジタル証明書アプリ「コモンパス」、「VeriFLY」、「IATAトラベルパス」について、JAL運航便での利用に向けて実証実験などの取り組みを開始します。デジタル証明書アプリは、新型コロナウイルス感染症の検査結果などを、スマートフォンをはじめとした各種デバイスに表示可能で、安全な情報管理(*)を前提としてさまざまな国との往来に不可欠であるとの考えのもと、関係機関とともに協力し、以下の実現を目指します。

- 医療機関が発行した新型コロナウイルス感染症の検査結果や、渡航先の入国要件・渡航資格などを、お客様のスマートフォンなどの各種デバイスにて確認できるデジタル証明書アプリの導入と普及
- デジタル証明書アプリを利用した非接触、非対面でスムーズな搭乗手続き(自動チェックイン)
- デジタル証明書アプリによる到着国での検疫通過など利用シーンの拡大

(*)航空会社は情報を所持し、各デジタル証明書アプリが各国法令と利用者の動機に基づき適切に情報を管理する仕組み

① 医療機関が発行した新型コロナウイルス感染症の検査結果や、渡航先の入国要件・渡航資格などを、お客様のスマートフォンなどの各種デバイスにて確認できるデジタル証明書アプリの導入と普及

② デジタル証明書アプリを利用した非接触、非対面でスムーズな搭乗手続き(自動チェックイン)

③ デジタル証明書アプリによる到着国での検疫通過など利用シーンの拡大

(*)航空会社は情報を所持し、各デジタル証明書アプリが各国法令と利用者の動機に基づき適切に情報を管理する仕組み

デジタル証明書アプリ 自動チェックイン 入国検疫

安全・安心・スムーズな渡航を実現

【各デジタル証明書アプリとの取り組みの概要】

■コモンパス

【特徴】

スイスの非営利組織であるコモンズ・プロジェクト(The Commons Project)が世界経済フォーラムの連携で推進している。医療機関から発行される検査結果が受入国の入国基準を満たしているかをコモンパスが検証し、検査結果をデジタル証明する仕組みです。

【実証実験概要】

対象便：4月2日JL074便(羽田発21:00ホルル着09:30) (+2)
4月5日JL711便(成田発17:55シンガポール着00:20)

実施内容：東邦大学羽田空港第3ターミナルクリニック(ハワイ州の指定医療機関)からアプリへのPCR検査結果の連携、および、空港チェックインカウンターでの確認などを実施します。

(+2)ハワイ到着後の検疫審査を出発時に済ませる「プリクリアランス(事前検疫審査)」が3月28日より開始と組み合わせて実施します。URL: <https://www.jal.co.jp/je/info/2021/inter/210315/>



ANA NEWS Inspiration of JAPAN

第20-116号
2021年3月10日

新型コロナウイルス検査結果やワクチン接種記録のデジタル証明書アプリ「IATAトラベルパス」の実証実験を実施します

- IATAが開発中のアプリ「IATAトラベルパス」の実証実験をANAの国際線にて実施します。
- 新型コロナウイルス検査結果やワクチン接種記録をデジタルにすることで、出入国手続きの非接触化と円滑化を目指します。

ANAは、国際航空運送協会(以下、IATA)が開発中のデジタル証明書アプリ「IATAトラベルパス」の実証実験をANAの国際線にて実施します。

「IATAトラベルパス」は、IATAが開発中のスマートフォン向けアプリです。お客様はアプリでパスポート情報を読み取り、顔認証で本人確認した上でデータを取り込み、新型コロナウイルス検査結果やワクチン接種記録をデジタル証明書としてアプリ上で管理します。出入国の際に係員にアプリ画面を提示することでスムーズかつ非接触に手続きを進めることができます。

また、アプリには最新の各国の入国要件が反映されます。お客様ご自身で最新の入国要件が閲覧できるほか、航空会社も正確にお客様の渡航資格を確認できます。

現在、全世界でANAを含む13の航空会社が「IATAトラベルパス」プロジェクトに参加し、実用化に向けた準備を進めています。

今回の実証実験では、検査機関でのデジタル証明書の発行や空港カウンターでのデジタル証明書の確認手続きの検証などを実施する予定です。

現在、新型コロナウイルス検査の陰性証明書やワクチン接種証明書など信頼のおけるデジタル証明書による、グローバルで統一的なアプローチが求められています。ANAは、「IATAトラベルパス」プロジェクトに参加することで、デジタル証明書アプリの実用化に貢献するとともに、国際線の本格的な渡航再開に備えます。

以上

ANA 広報部 03-6735-1111 成田 0476-31-6007 羽田 03-5757-5548 伊丹 06-6856-0270 関西 072-456-7890
A STAR ALLIANCE MEMBER

<出典：IATA Contactless Travel 8OCT2020資料より>

<出典：JALホームページより>

<出典：ANAホームページより>

羽田空港をご利用されるお客さま・職員の安心・安全な空港サービスの提供と
一日も早い国際線の本格的な運航再開に向け、これからも努めてまいります。

END

